

設問1

理学療法士の品質管理をする際に参考となる考え方にPDCAがある。PDCAの構成要素として、誤っているのはどれか、1つ選べ。

A1	予測
A2	改善
A3	プラン策定
A4	実行
A5	再評価

正解 A1

理学療法士のマネジメントの基盤はプラン策定(Plan)、実行(Do)、再評価(Check)、改善(Act)である。理学療法士の特徴を表す評価(Evaluation)をPDCAに加えて、EPDCAを基盤として考えることも有用である。

設問2

経営環境を内部と外部からの影響に区分し、さらに好影響と悪影響をもたらすものに区分し、マトリックスを作り自社の環境条件を明確にする手法としてSWOT分析がある。SWOT分析の要素として、誤っているのはどれか、1つ選べ。

A1	改善
A2	強み
A3	弱み
A4	脅威
A5	機会

正解 A1

SWOT分析は、内部環境と外部環境の軸、目標達成に対してプラスかマイナスの軸、それぞれを縦軸と横軸とし、結果として分かれた4つの項目(強み、弱み、機会、脅威)から成る。4つの項目を埋めていくことで、部署の現状を理解し、目標達成に向けた戦略立案の基盤を築くことができ

設問3

医療の質を評価する考え方のひとつにドナベディアンモデルがある。ドナベディアンモデルの構成要素として、正しいのはどれか、1つ選べ。

A1	再評価
A2	過程
A3	リスク
A4	効果
A5	質

正解 A2

医療の質を評価するドナベディアンモデルは、構造、過程、結果の3つの要素で成り立っている。結果は直接コントロールできない。直接コントロールできるのは、構造と過程のみである。

設問4

管理者が部下と信頼関係を築く際のポイントとして、誤っているのはどれか、1つ選べ。

A1	公正である
A2	すべて公表する
A3	能力を示す
A4	一貫性を示す
A5	約束を果たす

正解 A2

管理者として、部下と信頼関係を築くためのポイントとして、公正であり、真実を話し、一貫性を示し、約束を果たし、能力を示し、約束を守り、秘密は守る(軽い気持ちや、その場の気分ですべてを公表しない)ことが重要である。

設問5

コーチング、ティーチング、メンタリングについて、誤っているのはどれか、1つ選べ。

A1	コーチングは、組織の目標に沿って支援することである。
A2	コーチングは、本人の意思に沿って、本人のやりたい事を実現させるために支援する。
A3	ティーチングは、指導者の知識や技術を教授する。
A4	メンタリングは、1対1で継続的定期的に行う。
A5	メンタリングは、信頼関係の構築を通じて、メンティの発達支援を目指す。

正解 A1

コーチングは、本人の意思に沿って、本人のやりたい事を実現させるために支援するものであり、必ずしも組織目標に合致しない。

ティーチングは、指導者の知識や技術を教授し、組織の目標に沿うように導く。

メンタリングは、知識や経験の豊かな人(メンター)、通常は年長者が、現時点でまだ未熟な若者であるメンティに対して、1対1で継続的定期的に交流し、信頼関係の構築を通じてメンティの発達支援を目指す。